

海堡

季刊

2008年 夏号/第20号

編集・発行/東京湾海堡ファンクラブ
会長 小坂一夫

発行日/2008年7月22日

kaihou

東京湾海堡ファンクラブニュース

No.20

題字は、明治39年10月1日陸軍大臣寺内正毅から外務大臣林董宛に提出した文書（外交史料館所蔵）より抜粋。
紋様は、尾形光琳：『八橋蒔絵硯箱』東京国立博物館所蔵より。

目次

- 第7回総会報告
- 東京湾海堡ファンクラブ見学会報告
鋸山見学会に参加して 飯田 武雄
- 千葉県定例県議会会議録（6号）抜粋
- 東京湾海堡を世界遺産に
毎日新聞 2008.03.04付（朝刊）
- 第二海堡補修工事の様子 内田 正伸
- 東京湾海堡（第一・第二）見学会
蓮見 隆
- 海堡井を開発、7月14日から販売開始
富津市商工会
- 「ちば文化的景観」に応募しましょう。

第7回総会報告

第7回総会が2008年6月28日、富津岬荘で開催された。会員116名のうち、総会出席者は65名（委任状提出者含む）で、定足数の過半数を超え、総会は成立し、下記議案が決議された。定例総会の後にはシンポジウム「文化財としての富津公園と海堡を含む地域のあり方」をテーマに、当ファンクラブの幹事で、江戸川大学准教授の高橋克氏が講演を行った。

また、講演会終了後には、バーベキューを囲んでの懇親会があり、会員同士の交流を深めた。

28日夜、地元ケーブルテレビ（J：COM千葉）が、総会と講演会の模様を「今日のできごと」として放送した。

翌29日、朝日新聞（千葉版）に、総会とシンポジウム開催に関する記事が掲載された。

記

第1号議案 2007年度事業報告

年	月	日	会報	行事	備考
2007	4				
	5				
	6	1	会報第16号の発行(済)		
		23		●通常総会 ◎シンポジウム8〔富津〕 運見隆氏：「東京湾海堡建設と技術」	2006年度会計報告
					2007年度会費徴収
	7	12	会報第17号の発行		
	8	4			富津市観光協会富津支部主催「第1回ふつつ海堡まつり」で海堡を説明するパネル展示を行った。
	9	6			平成19年9月富津市議会にて、鈴木敏雄議員が第一海堡と第二海堡の活用について質問した。
		25		◇現地見学会12〔世界遺産への取り組み事例〕 鎌倉	
	10				
	11	19	会報第18号の発行		
	12	1		◇現地見学会13〔富津〕 鋸山	役員が吉本充県議と面会し、県議会での質問する内容について話を伺った。
		10			千葉県定例県議会にて、吉本充議員が第一海堡と第二海堡の活用について質問した。
2008	1				
	2				
	3	15			富津漁業協同組合のご協力を得て、当ファンクラブ役員が海上から第一海堡と第二海堡を視察した。
		31	会報第19号の発行		

第2号議案 2007年度決算報告

2007年度（2007.4.1～2008.3.31）決算報告

（単位：円）

項目	07年度予算額	07年度決算額	差違	備考
収入の部				
会費	230,000	250,000	20,000	
参加費	100,000	48,500	-51,500	鋸山見学会で昼食を弁当持参としたため、参加費が安くなった。
前期繰越金	217,070	217,070	0	
寄付金	-	-	-100,000	
計	547,070	515,570	31,500	
支出の部				
印刷費	150,000	121,570	28,430	会報4回発行、シンポジウム資料・見学会資料
通信費	80,000	80,338	-338	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
講師謝金・交通費	150,000	18,670	131,330	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
見学会・シンポジウム開催費	30,000	33,140	-3,140	
文房具・備品	20,000	3,464	16,536	発送用封筒など
保険料	5,000	2,500	2,500	
役員会開催費	15,000	19,530	-4,530	
全国近代化遺産活用連絡協議会費	3,000	3,630	-630	協力会員の会費、振込手数料
その他	20,000	5,000	15,000	
計	473,000	287,842	185,158	
次期繰越金	74,070	227,728	-153,658	収入-支出

以上のとおり、ご報告申し上げます。 会計 高橋悦子
 上記の決算書を監査の結果、いずれも正確妥当であることを認めます。

平成20年 6月7日

監事 高橋 悦子

【予算との差異】 予算と実績とが違ったことは下記によるものです。

<収入の部> 見学会の一人当たり参加費を安くしたため、収入が少なかった。

<支出の部> 遠方からの講師の可能性も含め、謝金・交通費を多く見込んでいたが、役員や会員による講師だったため、交通費が発生しなかった。12月に予定していたシンポジウムが2008年度にずれ込んだため、支出が少なかった。

第3号議案 2008年度事業計画

年	月	日	会報	行事	備考
2008	4				
	5				
	6	7		◎シンポジウム9【東京】 浅川道夫氏「品川台場にみる西洋築城技術の影響」	昨年度開催予定(開催済み)
		28		●通常総会 ◎シンポジウム8【富津】 高橋克氏:「文化財としての富津公園と海堡を含む地域のありかた」	2007年度会計報告
					2008年度会費徴収
	7		会報第20号の発行		
	8			◇現地見学会14【要塞見学】 館山戦争遺跡	
	9		会報第21号の発行		
	10				
	11		会報第22号の発行	◇現地見学会15【東京】 洋上見学あるいは、皇居	
	12			◎シンポジウム9【横須賀】 「横須賀市と東京湾海堡」	
2009	1		会報第23号の発行		
	2				
	3				

※ 11月の洋上見学は、第一海堡と第二海堡を海上から見学する予定で、船は国土交通省へ協力を依頼する。

※ 大阪湾の由良要塞見学ツアー（1泊2日）は、参加者が集まる目処がたったら、実施を検討する。

第4号議案 2008年度予算案

(単位:円)

項目	08年度予算額	07年度決算額	差違	備考	
収入の部	会費	250,000	250,000	0	
	参加費	100,000	48,500	51,500	
	前期繰越金	227,728	217,070	10,658	
	寄付金	-	-	0	
	計	577,728	515,570	62,158	
支出の部	印刷費	150,000	121,570	28,430	会報4回発行、シンポジウム資料・見学会資料
	通信費	80,000	80,338	-338	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
	講師謝金・交通費	200,000	18,670	181,330	見学会・シンポジウム講師謝金、見学会行程内の交通費
	見学会・シンポジウム開催費	30,000	33,140	-3,140	
	文房具・備品	10,000	3,464	6,536	発送用封筒など
	保険料	3,000	2,500	500	
	役員会開催費	20,000	19,530	470	
	全国近代化遺産活用連絡協議会費	3,630	3,630	0	協力会員
	その他	20,000	5,000	15,000	
	計	516,630	287,842	228,788	
次期繰越金	61,098	227,728	-166,630	収入-支出	

【昨年度との差異】

<収入の部> 館山見学では、マイクロバスによる移動が想定されるため、一人当たり参加費を通常より高く想定した。

<支出の部> 交通費では、館山見学におけるマイクロバスのチャーター費用を含むため、前年比で大きくなった。

第5号議案 会則改定の件

●会則 第9条 (役員)

副会長の人数を1名から2名へ変更する。

(旧) 副会長1名 → (新) 副会長2名に変更

第6号議案 2008年度役員選任の件

●役員の変更

副会長 朝倉光夫 副会長→幹事
 幹事 田中富蔵 幹事 →副会長
 幹事 仲野正美 幹事 →副会長

●役員の退任

幹事 西田信吉 ((株) 港建技術サービス)

●2008年度役員 (案)

会長 小坂一夫 (富津市文化財審議委員)
 副会長 仲野正美 (前 横須賀市立北下浦小学校教頭)
 副会長 田中富蔵 (新井区長)
 幹事 朝倉光夫 (東亜建設工業 (株))
 幹事 安室真弓 (東京湾学会理事)
 幹事 松本庄次 (前 富津公民館長)
 幹事 小沢洋 (富津市生涯学習課)
 幹事 長崎哲士 (彫刻家)
 幹事 勝巖 (新横商事 (株))
 幹事 高橋克 (江戸川大学准教授)
 幹事 渡辺京子 (富津湾の会幹事)
 幹事 (事務局長) 島崎武雄 ((株) 地域開発研究所)
 幹事 (会計) 高橋悦子 ((株) 地域開発研究所)
 顧問 西田好孝 (東京湾海堡建設従事者子孫代表)
 監事 蓮見隆 (NPO リサイクルソリューション技術顧問)

東京湾海堡ファンクラブ見学会報告
館山見学会に参加して

東京湾海堡ファンクラブ会員 飯田 武雄

平成19年12月1日、午前10時、浜金谷駅前に総勢21名が集まり、初冬の穏やかな日とに恵まれた絶好の登山コンディションのなか、小坂会長の挨拶の後、県立天羽高等学校教

諭高梨先生による鋸山の名前の由来や地層、石の特長、そして登山コースである車力道などの講義を受け、予備知識を学んだ。その後、十分な準備体操を行い、標高 329m の鋸山頂上を目指した。私にとって徒歩で登るのは小学校遠足以来であり、何故かところが弾む。しかし、その思いは束の間、なんと私の足が思うように動かない。杖を頼りに、よたよたと。今日ほど地球の重力が悩ましく思った事はない。メンバー皆さんの健脚ぶりには驚くばかり。気が付けば私は最後尾を登っている。情け無い事此の上無い。



写真-1 鋸山駅



写真-2 房総石の蔵



写真-4 房州石の灯籠

それにしても此のきつい坂道を仕事とは言え石の運搬に登り下りを繰り返した先人達、特に婦人達には想像を絶する重労働であったに違いない。配布された資料の中に石車を下り坂の道に摺る様にして下りてくる婦人の写真が載っている。そんな石材運搬作業が、長い間行われていた為であろうか？

此の車力道に深い二筋の溝が今も鮮明に残っている場所があり、激しい作業であった事を物語っている。非常に危険で過酷な仕事であったに違いない。又、石材の荷を下ろしてから石車を元の採石場まで担いで運んだと聞く。なんと逞しい婦人達であろうか。ただ驚くばかり。



写真-4 婦人の石材搬出の様子
『千葉県誌 上巻』1919年より



写真-5 車力道



写真-6 車輪の跡

そんな事を思いながら頂上に辿り着いた。みんな既に弁当を食べていた。私は眼下に行き交う東京湾口の船を眺めながら、シンプルなおにぎりを頼張った。食後の一時、眺望を楽しみカメラを手に景色を撮る人、ベンチで談笑する人など皆思い思いに休憩を楽しんだ後、採石場跡に移動し石切場を

見聞する。採石場跡の此処彼処に、長い間繰り広げられた採石の歴史が刻み込まれている岩棚、そして切り立った断崖。その側面に、より良い石材を求めて掘り進んだであろうか、深い横穴が数ヶ所あり、見るに大変危険で厳しい作業であった事が窺える。此の採石場の石が、皇居の造営や築港用に又、建物の基礎などにも広く使われ、そして海堡建設に大量に使われたと聞く。願わくは此の石で第一海堡の崩落しつつある防波堤の修復が出来ればと海堡ファンの1人として、叶わぬ事とは知りつつも、つい考えてしまう。



写真-10 石切場



写真-7 浜金谷

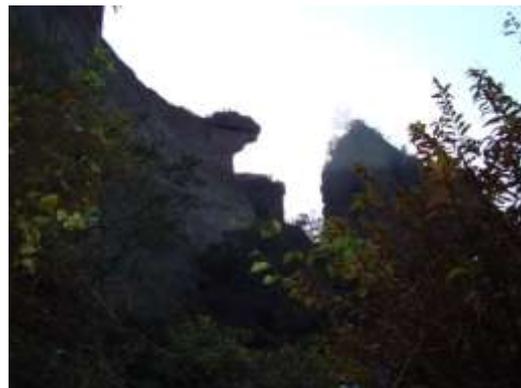


写真-11 「地獄のぞき」を下から



写真-8 保田漁港

江戸期から明治、大正、昭和と約 240 年もの間、多くの人達が此処で働き、国や地域に貢献し富を与えてくれた採石場。今は静まり返り、採石に使われたであろう赤く錆付いた機械類が放置され朽ちている。かつて活況を呈した採石場、凶らずも時の流れと共に活躍の場をコンクリートや大谷石に譲り役目を終えて久しい今、この断崖の側面にロッククライミングの練習でもしたのか、ハーケンなどが打ち込まれているのが見える。又、最近岩壁の音響効果を利用したコンサートなどが開かれ、ハイカーや若者達が集い賑わうと聞く。昔は採石で賑わい、今はハイカー達で賑わう鋸山、栄えあれと願いつつ採石場を後にした。



写真-9 石切場



写真-12 ロープを引っ張る機械

千葉県定例県議会会議録（6号）抜粋



写真-13 コンサート会場の石伐場と高梨氏

帰りは関東ふれあいの道コースで下山する事になった。下りは少し余裕が出来、山々の紅葉を観て楽しみながら無事下山する事が出来た。この度、高梨先生には鋸山の見学会に際し、数々のご講義ご指導を賜り有難く感謝申し上げるとともに、小坂会長はじめ事務局関係各位に深く感謝申し上げたい。



写真-14 案内板を困んで

下山後、役員会議が開かれ、私はオブザーバーとして参加が許された。会議は終始和やか且つ熱心に海堡について話し合われ、特に第一海堡の改修の事に及ぶと一層熱心に話し合われた。そして話が進み、吉本充県議が自宅に居られると聞き、早速連絡をとり当会議に出席して頂くようお願いした所、快く会議に出席して下さいました。その際、第一海堡の改修の事、第一、第二海堡の世界遺産登録の事や観光資源についてなど、県議会に提言して頂くようお願いした。又、海堡の現況など諸々話し合い、有意義なうちに役員会議は終了した。

会議で感じた事は、皆さん本当に東京湾海堡を愛し、そして学術的にとらえ勉強されている事に敬意を表すと共に、此の会が更に発展し深まって行く事を願いたい。

私はこんな言葉を思い出した。「学術は少年の心を養い、青年の心を満たし更に^{じつ}實年の心をも豊かにする」と…。

一老人の拙い日記より。

平成19年(2007年)12月10日(月)の千葉県定例県議会において、吉本充議員が第一海堡と第二海堡の活用について質問されました。そのときの会議録を掲載します。

○吉本 充君 改めまして、皆さん、こんにちは。

富津市選出、自由民主党の吉本でございます。

きょうはこの議場、私の地元はもとより、本日私が行います質問に大変関心の高い方たちが君津市、木更津市、袖ヶ浦市、東京からもおいでをいただいております。大変ありがとうございます。ぜひ執行部におかれましては前向きな、真摯な、そして皆さんが納得できるような答弁を期待して、早速質問に入らせていただきます。

まず初めに、富津岬沖の第一、第二海堡について伺います。とは申しましても、海堡って何だと思われる方が恐らく大勢いらっしゃると思いますので、議長の許可をいただきまして、ちょっとこれをごらんいただきたいと思います。

議場の皆さん、皆さんの向かって右側が第一海堡といいいます。左側が第二海堡といいいます。関東の天の橋立てと言われます富津岬、その沖合にこの2つはございます。人工島であります。

もう少し詳しく説明をします。

時は江戸時代末、幕末と呼ばれたころ、当時の江戸湾にアメリカやロシアの船が大変来るようになりました。これに対して当時、江戸幕府は伊豆の代官でありました、蕨山の反射炉で有名な江川太郎左衛門に命じまして、江戸湾のいわゆる海防計画というものをつくらせます。その第一にあったのが湾口海堡建設計画というものであります。そして、第2番目が品川台場の建設計画でありました。ただし、当時の幕府の事情があったのだと思いますが、海堡の建設は残念ながら成りませんでした。幕末にでき上がったのは品川台場だけでありました。富津岬の前面海域にこれら3つの海堡が築かれたのは、明治、大正になってからであります。

さて、この第一海堡、明治14年から着工しまして、約9年の歳月をかけまして明治23年に竣工しました。これは大量の石材を海中に投入しまして、そしてその上に堤防を築き、その内部に砲台を建設したものであります。地元の住民を中心に延べ32万人もの労働力を投入したと言われております。地元の古老に伺えば、当時は機械などありませんから、裸潜りと呼ばれる方たちが大人の男3人で約1トンの石を海中で動かしたというふうなことを聞いております。

第二海堡は、第一海堡の西 2.5 キロの地点に約 25 年を要して、第一海堡よりもさらに多い延べ 50 万人の労働力を投入して、大正 3 年に竣工しました。その当時から世界に類を見ない壮大な海堡として知られていました。

戦後になって、この第一海堡と第二海堡はGHQの命令により、その機能の多くは失いましたが、現在でも富津岬からは当時の威容を十分にしのぶことができます。

そのため、文化庁では、世界的にも高度な当時の海洋港湾技術を示すものとして、海洋港湾技術史上の価値を高く評価し、詳細な調査を実施したと聞いております。

現在、第一海堡は財務省、第二海堡は海上保安庁が管理をしておりますけれども、第一海堡は特に南側護岸の崩壊が進んでおりまして、第二海堡も、船の航路に影響を与えそうなほど崩壊が進んできております。

もう一つの第三海堡は、関東大震災で崩壊をいたしまして、その後、崩壊が激しく、船の航行安全に影響が出ていたため、撤去工事が進められまして、既に撤去が完了したとも聞いております。第一、第二海堡も、このまま放置しておけば、第三海堡のように消え去ってしまう運命となりかねません。

また、当時の文献によりますと、これら海堡が築造されたころ、当事のアメリカ合衆国の陸軍長官であったタフト、後の合衆国大統領になる人物であります。直接、首都ワシントン防衛のためにチェサピーク湾という湾にやはり同じように人工島をつくりたいということで、正式に明治政府にこの技術提供ということが要請がありました。

私も実は知らなかったんですが、明治になってつくったこの海堡は、当時のヨーロッパや欧米の技術力をもってつくったのだらうと思っておりましたら、そうではなくて、日本人の江戸から始まりました和算という学問を基礎にしまして、これで実はつくったもので、当事ドイツから来ていた駐在武官等に言わせると、この計画は絶対不可能だ、できっこないとまで言い切られてしまったものを日本人がつくったそうであります。

この海堡は、戦前までは重要な軍事施設であったため、一般人の立ち入りはもちろん、機密扱いのため、調査・研究の対象とはなりません。知る人が少なかったために、戦後も長い間、地元県民の多くの方にその存在を忘れられていたという状況にありました。

海堡のこのような状況を憂い、今から 5 年前の平成 14 年に、その歴史の検証と愛護を目的として、東京湾海堡ファンクラブという会が発足をしました。きょうもおいでいただいております。

平成 16 年にシンポジウムを開催し、当事の副知事にも出席をいただきました。

また、平成 17 年には県に対し、海堡を核として、対岸の神奈川県横須賀市にある要塞など東京湾口の一連の要塞群の調査について、国土交通省が取りまとめている国土施策創発調査に応募したらどうかとの提案を会としても行ったところがあります。

ちなみに、この国土施策創発調査というのは全額国費で、地域づくりに関する施策を実施するために必要な調査を国・地方公共団体等が連携して実施するものであります。この提案に対して県は、関係課を集め、何度か打ち合わせを行ったということですが、残念なことに、昨年度においては結論を出すには至らなかったと聞いております。

さらに、昨年 8 月には私も同席して、第一及び第二海堡の管理と護岸修復、案内看板の設置などの要望を堂本知事にさせていただいたことは、知事も覚えておいでになると思います。

富津岬周辺の歴史的な海洋構造物と富士を望む自然が巧みに織りなすこの風景は、県内でも最も美しいと思われる景観の一つであります。また、幕末から明治・大正期につくられた品川の台場や神奈川県の観音崎砲台群までの東京湾要塞群は、我が国の近代化の歩みを物語る貴重な遺跡であり、世界遺産に登録することも視野に入れて取り組むべき文化遺産と考えます。これらは日本でここだけにある貴重な財産であり、地域の大切な観光資源でもあります。

話は少し戻りますが、つい最近、船の航路への影響を防ぐため、第二海堡の崩壊を防止する工事を実施する予定があるとの説明が国土交通省から地元、富津漁業協同組合にあったとお聞きしました。貴重な財産をこのままの状態に放置し続けることは、将来に向けて大きな禍根を残すのではないかと危惧をしていたところであり、工事の内容が大変気になるところです。

私としては、海堡の保存はもとより、将来は観光面などで利用できるような整備につながる工事をしてほしいと思います。

地元としても、海堡を含む一連の要塞群を整備・再開発して、観光資源などとして地域振興に役立てたいとの強い意向を持っており、千葉県としても第一及び第二海堡の調査と活用を早急に考えるべき時期に来ていると思います。

そこで、お伺いします。

1つ、国から地元漁業協同組合に説明のあった第二海堡の崩落防止工事の内容はどのようなものか。

2つ、第一、第二海堡に関する文化庁の調査状況をどのように把握しているのか。

3つ、第一、第二海堡を含む東京湾要塞群は、世界遺産に登録することも視野に入れて取り組むべき遺跡と考えるが、どうか。

4つ、第一、第二海堡を観光資源として活用する考えはないか。また、その際に国土施策創発調査に応募する考えはないか、伺います。

○副議長（成尾政美君） 吉本充君の質問に対する当局の答弁を求めます。知事堂本暁子君。

（知事堂本暁子君登壇）

○知事（堂本暁子君） 自民党の吉本充議員の御質問にお答えをいたします。

富津岬沖の第一、第二海堡についての、私は4問ありますうちの最後の4問目にお答えいたします。

きょうは、先日陳情に見えた方も傍聴席にお見えということなのでございますけれども、私—後から1問、2問、3問についてのお答えはさせていただきます。第一、第二海堡を観光資源として活用する考えはないか、またその際に国土施策創発調査に応募する考えはないかとの御質問でございます。

これらの海堡の観光資源としての活用については、明治期以来の首都湾の防衛に関する歴史を身近に感じる体験ツアーが想定されるなど、新たな観光スポットとしての可能性があります。今、議員からるる歴史についてお述べいただきましたけれども、大変古い歴史を秘めた海堡でございます。

しかし、老朽化が著しく、観光客の安全確保面から施設全体の大規模な修復が必要であることなどから、解決しなければならぬ多くの課題があると認識をしております。このため、海堡の保全を前提として、国が実施する国土施策創発調査への応募の可能性を含め、地元自治体等の御意見も伺いながら、さらに研究が必要であると考えております。

では、残る問題については担当の部局長からお答えをいたします。

○副議長（成尾政美君） 農林水産部長加藤勝君。

（説明者加藤 勝君登壇）

○説明者（加藤 勝君） 私からは、富津岬沖の第一、第二海堡問題のうち1問についてお答えをいたします。

国から地元漁業協同組合に説明のあった第二海堡の崩落防止工事の内容はどのようなものかとの御質問でございますが、国が計画している第二海堡の崩落防止工事は、第二海堡西側の浦賀水道航路に面した約170メートルの部分について鋼管

矢板による護岸改修工事を実施するもので、平成23年3月の完了予定と聞いております。

なお、国は、工事に当たり、漁業への影響を最小限とする工法で行うこととし、本県漁業関係者を代表する千葉県漁連と漁場が隣接する富津・新富津漁業協同組合に説明を行い、同意が得られたと聞いております。

以上でございます。

○副議長（成尾政美君） 教育長佐藤健太郎君。

（説明者佐藤健太郎君登壇）

○説明者（佐藤健太郎君） 私からは第一、第二海堡についてお答えいたします。

まず、富津岬沖の第一、第二海堡に関する文化庁の調査状況をどのように把握しているのかとの御質問でございます。

海堡などの軍事に関する遺跡につきましては、文化庁が近代遺跡の一つとして全国調査を行い、平成14年度にはその中から50件が詳細調査の必要な遺跡に選定されております。第一、第二海堡はこの詳細調査の対象として、平成16年2月に文化庁が委嘱した専門家による現地調査が実施されたところでございます。現在、文化庁におきまして本調査の結果を踏まえた報告書を作成中であり、この中で海堡の現状などが取りまとめられると聞いておるところでございます。

次に、第一、第二海堡を含む東京湾要塞群は世界遺産に登録することも視野に入れて取り組むべき遺跡と考えるが、どうかとの御質問でございます。

江戸時代末期以降、東京湾には外国船の脅威に備えて各地に砲台がつけられました。その中で千葉県の富津岬沖にある第一、第二海堡は、我が国唯一の砲台を備えた人工島とされております。これら東京湾要塞群の世界遺産の登録でございますが、登録されるためには国の史跡指定が前提となりますので、今後、調査結果の報告などを踏まえながら、文化庁とも連絡を密にして、研究してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○副議長（成尾政美君） 吉本充君。

○吉本 充君 大変前向きな答弁というふうに私は受けとめました。ありがとうございました。

再質問、要望をさせていただきます。

富津岬沖の第一、第二海堡でございますが、これははっきり言って、知事さん答えられたように、修復をしなければならない、いろいろな問題があるわけでありまして。しかしながら、日本で、我が国にここしかない。そして、この第一、第二海堡というのは実にその当時の我が国の海洋技術のいわゆる結晶とも言えるような技術力、そして人の労働力を使って

できたものであると。これは今まで本当にほったらかし状態でありました。ですから、何としてでも、これは千葉県の財産だけでなく、我が国の財産になり得るものだと私は思っています。

大きな話ばかりはなかなかできまいでしょうけれども、ひとつ要望は、この第一、第二海堡についてはほとんどの人が知らないんです。そして、富津公園は県立公園であります。あの先に明治百年記念展望塔があって、せっかく修復をしていただいたあそこへ行って、指呼の間にこの2つが見えます。「あれは何」という声が起るわけでありまして。ぜひあの場所に歴史的経過、あれは第一海堡、第二海堡というんだというような看板を、これは大きなお金が必要とするものではございませんので、早速にでも設置をしていただきたい。これは要望をさせていただきます。

さらに、できましたら、先ほどお答えいただきましたけれども、国土交通省が第二海堡の崩落防止工事をやると。どうせ国の金でやっていただくのでありますから、この崩落防止のためだけということでは国はやるんでしょうが、ぜひ県としても改めて海堡の保存活用を将来の視野に入れた工事を、ついぞと言っては何ですが、ぜひやってくれないかというような働きかけをぜひしていただきたいなと思います。

最後に一つだけ、教育長さんの答弁にありました。我が国ここだけという認識は持っている。私は世界遺産、この海堡だけで世界遺産とは思いません。ただ、千葉県には自治体が手を挙げる世界遺産候補が正直言って今ありません。東京都と神奈川県と一緒に世界遺産という千葉県の県民に夢を与えるようなことをぜひ知事さん、八都府市とかで提案していただいて、世界遺産というようなことのお考えがあるかどうか、所見があればひとつ伺って、私の質問を終わります。

○副議長（成尾政美君） 知事堂本暁子君。

○知事（堂本暁子君） 世界遺産に東京、神奈川と一緒にという大変雄大な夢と申しますか、御希望でございますけれども、世界遺産の登録は、貴重な文化財、それから人類共通の遺産ということでございますから、この海堡も次世代に大変な一正大から、明治、大正でしょうかね、にかけて、とても外国の人には考えられないような人の力で島をつくってしまったということのようですけれども、地域振興、それからまちづくりの面でも、こういった遺産というのは期待されると思っております。

第一、第二海堡の世界遺産登録ですけれども、先ほど教育長からも御答弁申し上げましたけれども、文化庁から調査の

結果がまだ報告されておられません。ですので、その結果を待った上で検討していきたいと考えております。

以上です。

○副議長（成尾政美君） 吉本 充君。

○吉本 充君 文化庁の調査結果が出た後に、この第一、第二海堡問題はさらに発展するように、何度もさせていただきたいと思っております。

以上をもって私の質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

（以上、千葉県議会ホームページより引用。）

東京湾海堡を世界遺産に 毎日新聞 2008.03.04

2008年3月4日（火）発行の毎日新聞（朝刊）に、小坂会長へのインタビュー記事が掲載されました。



東京湾海堡を世界遺産に

ファンクラブ会長 小坂一夫さん

富津市の富津岬沖の東京湾に、二つの人工島が浮かぶ。首都・東京防衛のため明治、大正時代に造られた要塞、東京湾海堡だ。パールに包まれた軍事施設も戦後60年以上放置され、護岸が崩れるなど崩壊の危機にある。海堡は当時の先端的な海洋土木技術を駆使した建造物で、歴史遺産として注目されており、東京湾海堡ファンクラブ会長の小坂一夫さん(61)は「世界でも珍しい東京湾海堡を世界遺産に」と訴えている。

—海堡とは

第二海堡補修工事の様子

東京湾海堡ファンクラブ会員 内田 正伸

2007年の12月頃より第二海堡の補修工事が行われています。かなり大掛かりな工事のようです。



2008年1月9日撮影



2008年1月25日撮影

東京湾海堡（第一・第二）見学会

東京湾海堡ファンクラブ監事 蓮見 隆

平成20年3月15日（土）晴れ、富津漁業協同組合のご好意もあり、小坂会長さんの同級生である副組合長さんの操船する指導船「ふつつ」で、護岸が崩壊しつつある東京湾第一・第二海堡を海上から見学をすることが出来た。

東京湾第一海堡は水深約-5mに設置され1890年（明治23年）に完成した。（既に完成してから118年経過している。）東京湾第二海堡は水深約-12mに設置され1914年（大正3年）に完成した。（既に94年経過している。）

一方、東京湾第三海堡は国土交通省が相次ぐ大型船舶やタンカーの事故を未然に防ぐため、昨年度まで7年を要して解体撤去された。東京湾第三海堡は第二海堡の西に東京湾の重

▶海上に築城した砲台。東京湾海堡は明治政府が外国軍艦の侵入を防ぐため、富津岬と神奈川県のお音崎を結ぶ東京湾の最も狭い場所に3カ所建設した。1890（明治23）年に富津岬の西1.5キロに第1海堡が完成。1914（大正3）年には、更に西方に第2海堡、21（大正10）年には横須賀沖に第3海堡が建設された。面積は約2万3100～約4万1300平方メートルだった。

一大型建設機械もない時代の土木技術は

▶建設には富津周辺の漁民や土木作業員が駆り出され、房総の山から集めた石や土砂、木材を船で運び、潜水して石積みした基礎に盛土し、兵舎や砲台を築いた。潮流の激しい湾口の水深5～40メートルの海底で、城の石垣や橋脚工事の石積みなどの伝統技術を駆使し、完成させたと伝えられている。世界最先端の技術として、アメリカやドイツなどから高く評価された。

明治・大正の最先端建造技術や戦争財産、証言者として後世に

一海堡の現在の所有者は

▶第1海堡は財務省。「不発弾が残っている恐れがある」と、立ち入り禁止になっている。侵食が激しく南側の護岸の4分3以上が崩れ、北側の港も砂で完全に埋まっている。第2海堡は海上保安庁が管理。以前は見学、釣りなどもできたが、2年前から上陸禁止になった。海難事故の訓練施設が設置されており時々、黒煙が上がることもある。第3海堡は関東大震災で3分の1以上が水没、航路の障害になるため、最近、国土交通省が撤去した。

一海上に上陸したことは

▶戦前は軍事施設なので近寄ることもできなかったが、戦後は何度も上陸している。50～60年代は映画のロケも多く、子供のころ、父の舟で見に行った記憶がある。40年ほど前までは、干潮になると富津岬と第1海堡が陸続きになり、バイクで渡ったりもした。

一ファンクラブ誕生のきっかけは

▶東京湾学会理事長の高橋在久さん（故人）を講師に富津公民館で開いた「東京湾学講座」。東京湾の歴史や文化、自然とともに、忘れられていた海堡の建造技術や歴史的意味合いなどを学んだ。受講生たちが「この歴史的財産を後世に残そう」と02年9月にファンクラブを発足させた。現在、会員は130人で、県に歴史を紹介する案内板の設置を、国に老朽化が進む護岸などの修復を求めている。海堡は戦争の遺産であり、戦争の証言者として世界遺産にしたい。

要な航路である浦賀水道（幅 1,400m・水深-23m）を挟んだ位置にある。

前日の夜半から風雨が激しく、北よりの風のため出航は無理かなと危惧されたが、小坂会長さんはじめ会員達の常日頃の行いが良いらしく、富津漁港からの出航時の 9 時ごろには薄日もさしてきていた。

東京湾第二海堡は前述の浦賀水道の東端にあり、航路の水深を維持するために航路の斜面崩壊を阻止すべく第二海堡の崩壊防止工事が国土交通省関東地方整備局によりはじめられた事が朝倉副会長より寄せられていた。

その様子を見学する事も今回の目的の一つであった。勿論、当「東京湾海堡ファンクラブ」が東京湾第一・第二海堡の護岸の崩壊を以前から危惧し千葉県の上本知事はじめ各関連の役所に、小坂会長さんはじめファンクラブ事務局は陳情を繰り返して新聞記事にもなっている事をご存知の通りである。



（写真－１）見学参加者の記念撮影 富津漁港棧橋
－筆者撮影のため筆者を除く全員－

見学には会員の他、富津市役所経済環境部長さん他 2 名の参加があり、合計 18 名が参加し（写真－1 参照）「ふつつ」に乗船した。スピードがでる指導船のため、まもなく東京湾第一海堡を通過し、東京湾第二海堡の東側から南側に廻った。

東京湾第二海堡(以下、東京湾を略す)の東端の護岸及び西端にある探照塔の台座〔1945 年（昭和 20 年）終戦後まもなく米軍が破壊〕とその護岸が波浪等により、ひどく被災している様子が伺えた。南側の一部は護岸よりむしろ上部の土砂が崩れているため、黒色の土嚢が数段きれいに積込まれている様子が確認できた。（写真－2 参照）

何れにしても第二海堡の護岸崩壊にともなう土砂等が航路側へ移動すると「航路」の水深を確保できなく事が予想されるので、国交省関東地方整備局が第二海堡の崩壊を防止するための工事を実施しているのが確認できた。



（写真－２）東京湾第二海堡 中腹部

第二海堡には北側に船着場が有るが、冬季間は北風が吹き海面が荒れやすいので、風下側の南側に工事用の仮棧橋が出来ていた。（写真－3 参照）



（写真－３）東京湾第二海堡 南側仮棧橋

第二海堡の西側探照塔の台座は、米軍が破壊したままの残骸として波浪にさらされたままになっている。今後、どうなっていくのか心配である。（写真－4 参照）



（写真－４）東京湾第二海堡 西側 探照塔台座部分

第二海堡東側の護岸基礎部分も同様、可也激しく波浪にさらされており、基礎の海中部分がどうなっているか心配の種の一つと言える。（写真－5 参照）



（写真－５）東京湾第二海堡 東側 護岸基礎部分

第二海堡北側の船着場には交通船が入港していたが、今日

は北風のため港側の方に波があり、南側より荒れている様子が見られた。(写真-6参照)



(写真-6) 東京湾第二海堡 北側 南側より波浪がある。

以上、第二海堡を一回りしてから東に戻って改めて第一海堡を見学した。

ここでは第一海堡の周辺護岸の物凄い崩壊状況を目の当たりにすることが出来た。(写真-7参照)



(写真-7) 東京湾第一海堡 南側 護岸のコンクリート壁の崩壊部分と未だ崩壊していない部分であるが、崩壊は時間の問題であろう。

未だ崩壊していないコンクリート壁護岸の上に財務省が立てた「立入禁止」の看板が立っていた。小坂会長さんの話だと、周囲には同様の看板が10箇所程立っているとの事である。(写真-8参照)



(写真-8) 東京湾第一海堡 崩壊していない部分の護岸と立入禁止の看板

第一海堡南護岸のコンクリート壁の背後は砂がむき出しの状況で、その後、風雨や高波が襲来すれば簡単に崩壊していく可能性が大きく心配である。(写真-9参照)



(写真-9) 東京湾第一海堡 南側護岸のコンクリート壁と上部にあった構造物の崩壊状況



(写真-10) 東京湾第一海堡 南側 可也激しくコンクリート護岸壁が崩れ砂がむき出しの状態になっている。

東京湾第一・第二海堡をゆっくり見学後、ここで一旦、西に向かい、浦賀水道航路を一跨ぎし、横浜港のベイブリッジや大黒埠頭近くまで行き、コンテナを荷役する大型ガントリークレーン群等も見学した。その後、船舶交通量の大変多い同航路を南北に往来する大型コンテナ船や大型タンカー船を真近に見ながら、平和時代における我国の経済産業活動にとって必要不可欠な「浦賀水道航路」や文化的・技術的な意味でも貴重な価値のある「東京湾海堡」の保全・保護の重要性を再認識しながら無事、富津漁港に帰港した。

指導船「ふつつ」の船長さん他の方々には改めて皆で感謝し、下船した。



(写真-11) 東京湾海堡見学でお世話になった富津漁業協同組合の指導船「ふつつ」
平成20年3月15日 富津漁港棧橋にて

この後、近くで反省会を行い、美味しいあさり飯等を頬張りながら歓談し解散したとの事である。(小坂会長さん談・筆者は用事のため欠席。)

以上

**「海堡井」を開発 14日から販売開始
地元海産物をPR 富津市商工会**

2008年7月14日千葉日報

地元海産物のPRに取り組む富津市商工会はかりめ倶楽部(雨笠正昭部長)が、新鮮な江戸前の貝類をふんだんに使った「海堡(かいほう)井」を開発し、14日から市内約20店で販売を始める。「はかりめ井」「てっぽう巻き」に次ぐ第三弾として地元海産物の消費拡大を狙うとともに、富津岬にある軍事施設跡「海堡」の名を冠することで貴重な歴史的建造物の保存も目指す。

同倶楽部は、2001年からアナゴを使った「はかりめ井」やアサリを使った「てっぽう巻き」を開発し、地元海産物のPRに取り組んできた。海堡井はその第三弾。

名前にもなっている海堡は、明治から大正にかけて首都防衛の軍事施設として同市沖の東京湾に造られた人口の島。現在、富津市には第一と第二海堡が残っており、貴重な歴史的建造物として保存が求められている。

海堡周辺は好漁場としてアサリやバカ貝、ミル貝、トリ貝などさまざまな貝類が取れる。そこで取れた貝類を味わってもらおうと開発されたのが海堡井。中身は時期や店ごとによって異なるが、貝やアナゴの煮付けなどが彩りよく盛りつけられる。



地元産の貝類がふんだんに盛りつけられた「海堡井」

9日に同市千種新田の「かん七」で行われた試食会で雨笠部長は「地元のおいしいものを多くの人に食べてもらって、海堡を後の代まで伝えていってほしい」とアピールした。

値段は店ごとに1,000~2,000千円で、8月末までの限定販売。詳しくはかん七(電話0439-65-1417)。

「ちば文化的景観」に応募しましょう。

2008年6月8日付の千葉日報(朝刊)によると、千葉県文化財課は、「ちば文化的景観」の候補を募集している。

「千葉県では、県が誇る伝統や文化、自然を継承するため、県文化財課が「ちば遺産100選」を創設し、選定作業に着手。すでに201件の遺産候補をリストアップし、県教委のホームページで県民からの投票の受け付けを開始した。選定結果は地域振興やまちづくり、観光資源としての活用が期待されている。

また、同様の趣旨で今回、「ちば文化的景観」の選定も行う。対象は、気候風土や地形を利用し、人々がつくってきた歴史・文化・生活・生業を具体的に示す優れた景観。現在52件が候補としてエントリーされているが、新たな候補も募集している。投票は、県教育委員会のホームページ(アドレス<http://www.pref.chiba.jp/kyouiku/>)で7月31日まで受け付けている。問い合わせは千葉県文化財課:電話043-223-4085。」

景観の候補の52件に東京湾海堡は入っていないので、千葉県民の方は、東京湾海堡を新たな「ちば文化的景観」の候補として応募しましょう。

(事務局 高橋悦子)

2008年6月28日(土)富津岬荘で開催された「通常総会並びに海堡シンポジウム」の一般参加を呼びかける記事が「房総新聞」、「房総ファミリア新聞」に掲載されました。

お知らせ：ふつつ海堡まつりの開催

7月26日(土)、第2回ふつつ海堡まつりが富津公園で開催されます。今年も当ファンクラブは、専用のブースで海堡をPRします。

会費入金をお願い

2008年度の会費の入金をお願いいたします。会費入金用の振込用紙(郵便局用)を同封いたしました。[すでにご入金いただいた方には振込用紙は入っておりませんが、入金いただいた方に振込用紙が入っていた場合は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。]

「海堡」 *kaibou* No.20

—東京湾海堡ファンクラブニュース— 第20号
東京湾海堡ファンクラブ 2008年7月22日発行

事務局 〒110-0015 台東区東上野2-7-6 東上野T.Iビル
(株)地域開発研究所内 東京湾海堡ファンクラブ事務局
電話 03-3831-2917 FAX 03-3831-6259